

(公社) 日本山岳会 栃木支部 第9回古道調査 実施報告書

1. 日時 令和4(2022)年10月27日(木)
2. 場所 日光市 西沢金山跡→金田峠→湯元温泉
3. 参加者 渡邊雄二(リーダー)、菱田克彦(記録)
4. 行程 西沢金山跡登山口(8:45)ーガレ沢通過休憩(9:55~10:00)ー金田峠周辺調査(10:55~11:30)ー深山之宿跡(11:40~11:45)ー刈込湖畔昼食(12:50-13:15)ー小峠(13:45)ー湯元温泉(14:20)ー日光湯元ビジターセンター(14:35)
5. 行動概要

秋が深まり天候も落ち着いてきたこの日、西沢金山跡から金田峠を経て湯元温泉に至る古道を調査した。ここは、昨年(2021年)に続いて2回目。



西沢金山跡の石垣

日光杉並木公園駐車場に集合し、車2台で日光湯元温泉へ行き、1台を駐車場に置いて、山王峠を越えて西沢金山跡へ行った。西沢は昭和初期まで金鉱石を産出する鉱山町であったとのこと。金山跡の石垣などが残るところを金田峠に向かって登っていった。道は明確のところもあるが、沢を横切るところでは崩落によって分かりにくくなっている。峠が近づくと笹が多く、踏み跡なのかケモノ道なのか、ますます分かりにくい。藪を分け鞍部にたどり着くと、シャクナゲの群落があり、金田峠の標識がある。峠の南側はガレた急斜面で、下降点は少し西に行ったところにある。下降点を下りずに、なだらかな稜線を西に進むと、深山之宿跡がある。ここは日光修験道の地であり、小さな石の祠(金剛堂)がある。残念ながら、仏様や扉はない(日光で確認されているもっとも古い1518年の銅扉が日光市指定文化財となって保管されているとのこと)。



金田峠から日光白根山を望む



深山之宿跡の石の祠

少し戻って、刈込湖に向けて下った。下り始めは2人並んで歩けるくらいの幅のある九十九折の道。しかし、しばらく行くと笹が茂って分かりにくいところもあり、目印を付けながら進んだ。刈込湖畔付近は、まったく痕跡ない。刈込湖はハイキングコースながら、紅葉は残り少なく平日ということもあって、我々以外に人はいない。湖畔の砂地にシカのあしあとがたくさんあった。

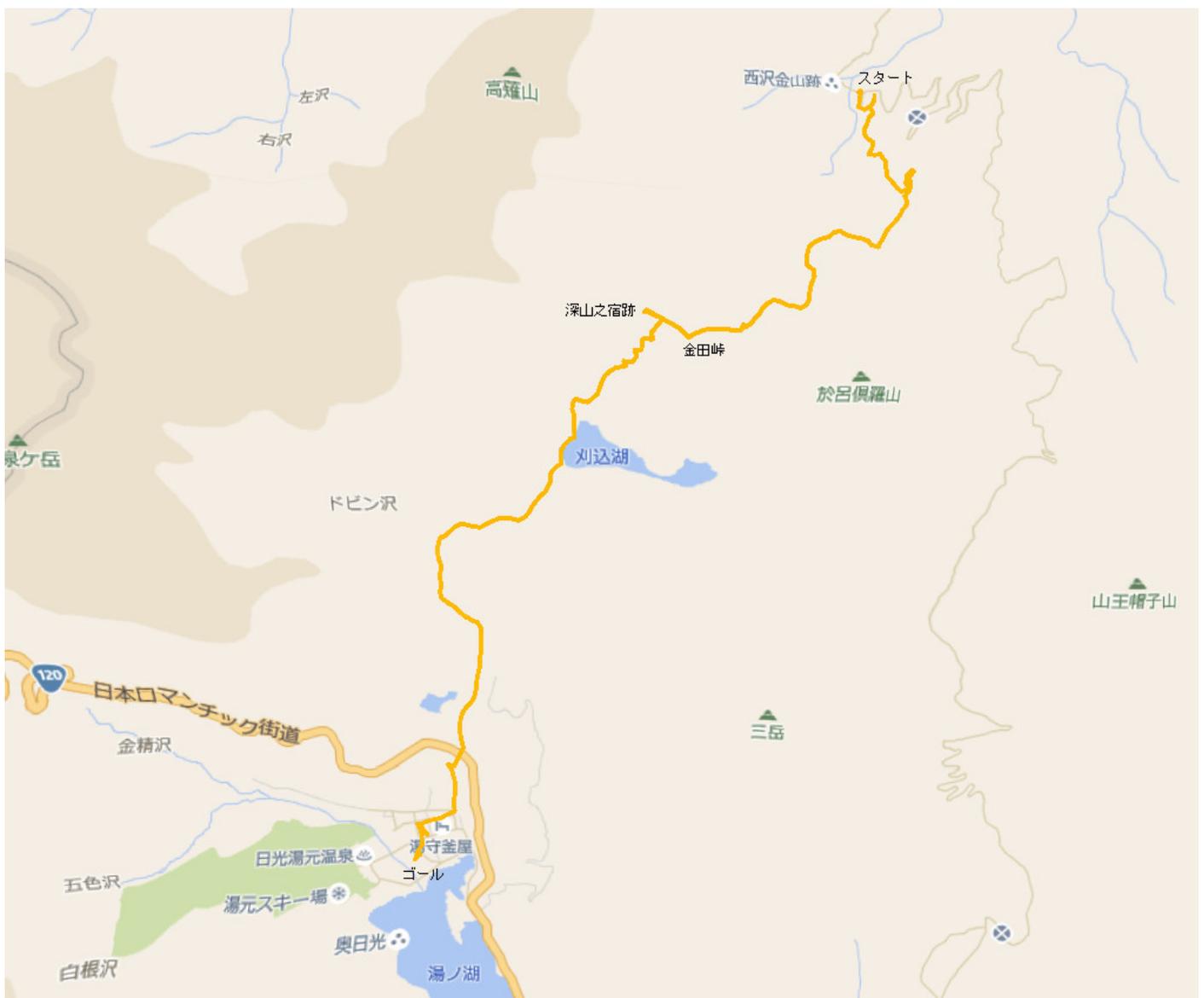
刈込湖から小峠までは、昨年の調査で古道を辿ったので、今回はハイキング道に戻り、そのまま湯元温泉へ下った。

「金田峠への古道を辿る」(西沢金山跡側往復)というイベントを開催する日光湯元ビジターセンターの桑名所長と情報交換した後、車で西沢金山跡へ戻り、解散した。

【文責 菱田克彦】



刈込湖へ下る九十九折の道



踏査ルート